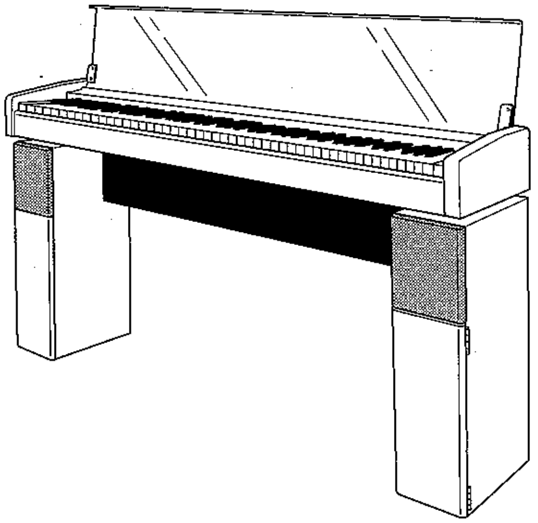
◆当商品をご使用になる前に必ず本取扱説明書をよくお読みください。

KAWAI

DIGITAL PIANO L2



《ごあいさつ》

このたびは、カワイデジタルピアノＬ２をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
本機は、奥行き約２７ｃｍというコンパクト設計ながら、弊社のコンサートグランドピアノＥＸをベースとしたピアノ音色など全８音色を持ち、リアルなピアノタッチを実現する鍵盤機構と併せて、本格的な演奏をお楽しみいただけます。また、自分の演奏を録音する機能、コンサートマジックなど多彩な機能を搭載しています。さらに、左右のスタンド部分には楽譜などをすっきり仕舞える収納スペースも設けました。
本機をご活用いただくと共に、末永くご利用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読み下さいますようお願い申し上げます。

目次

◆安全上の注意 2
1. 各部の名称と働き 4
◇ 操作パネル 4
◇ 付属のファンクションシールの使用 4
◇ ACアダプター/フットペダル/ヘッドホンの接続 6
◇ 譜面立て兼用キーカバーの取扱い 7
2. 演奏してみましょう 8
1）基本操作 8
◇ 音色の選び方 9
2）デュアル演奏 10
3）リバーブ 11
◇ 音にリバーブ効果を加える 11
4）デモ曲の演奏 12
5）コンサートマジック 13
◇ コンサートマジック曲の選択 13
◇ コンサートマジック曲の演奏 13
◇ コンサートマジック曲の再生 14
◇ その他の再生方法
（チェイン再生/グループ再生/ランダム再生） 14
6）タッチカーブ・セレクト 15
7）トランスポーズ 16
8）メトロノーム 17
◇ 拍子の設定 17
◇ テンポの設定 17
3. 録音・再生 19
1）録音 19
◇ 録音をしましょう 19
2）再生 20
3）録音内容の消去 20
4. 設定モード（ファンクション） 21
◇ 設定モードの基本的な使い方 21
① チューニング 22
◇ MIDI機能の使い方 23
◇ 本機MIDI機能 23
② MIDI送信・受信チャンネル 24
③ ローカルコントロール オン/オフ 24
④ マルチティンバー・モード オン/オフ 25
⑤ プログラム（音色）ナンバー送信 オン/オフ 25
⑥ プログラム（音色）ナンバー送信 26
⑦ コンサートマジック演奏モード切り換え
モード1 / モード2 26
5. 付　録 27
1）外部機器との接続 27
2）本体の組み立てかた 28
3）主な仕様 30
MIDI IMPLEMENTATION CHART 31

●付属品

□ACアダプター（PS-125D）
□フットペダル（F-1r）
□ヘッドホン（SH-2）
□ファンクションシール
□取扱説明書（本書）
□本体の組み立て方
□保証書
□ご愛用者カード
□アフターサービスと音楽教室のご案内
□「コンサートマジック曲集」のご案内
□「コンサートマジック曲集」払込取扱票
（全て各1部）

◆安全上の注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しくお使い下さい。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守って下さい。表示と意味は次のようになっています。製品本体に表示されているマークには次のような意味があります。

注意
感電の危険あり
本体をあけるな

注意：火災や感電防止のため、本体を雨や湿気の多いところに、さらさないで下さい。

⚠ このマークは、感電の危険があることを警告しています。

⚠ このマークは、注意喚起シンボルです。取扱説明書等に、一般的な注意、警告の説明が記載されていることを表しています。

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容が記載されています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

絵表示の例

△記号は注意（用心してほしい）を促す内容があることを告げるものです。左図の場合は「指を挟まないよう注意」が描かれています。

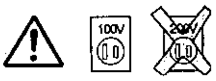
○記号は禁止（行ってはいけない）の行為であることを告げるものです。左図の場合は「分解禁止」が描かれています。

●記号は強制（必ず実行してほしい）したり、指示する内容があることを告げるものです。左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。

⚠ 警告

◆電源は、必ずAC100Vを使う

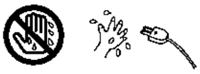
100V以外禁止



●電圧の異なる電源を使用しないで下さい。
●発火の恐れがあります。

◆水に濡れた手で、電源プラグを抜き差ししない

濡れた手で触らない



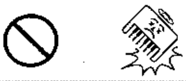
●感電の原因になります。

◆水がかかる場所で使用したり、水に濡らす（つける,かける,こぼす）などしない

●漏電によって、感電や発火の原因になります。

◆本機の上に乗ったり倒したりしない

落とさない



●運搬の際は、必ず２人以上で運んで下さい。

◆ヘッドホンは、大音量で長時間使用しない

長時間使用禁止

●聴力低下の原因になる恐れがあります。

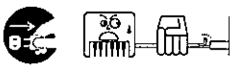
◆本機を分解、修理、改造しない

分解禁止

●故障、感電、ショートの原因になります。

◆電源プラグを抜くときは、必ずプラグ部分を持って抜く

プラグ部分を持つ



●コードを引っ張るとコードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆長時間使用しない時は必ず電源プラグを抜く

プラグを抜く

●落雷時に火災の原因になります。

⚠注意

◆本機を次のような所では使用しない
●窓際など直射日光の当たる場所
●暖房器具のそばなど極端に温度の高い場所
●戸外など極端に温度の低い場所
●極端に湿度の高い場所
●砂やホコリの多い場所
●振動の多い場所
使用禁止
●故障の原因になります。

◆コード類を接続するときは、各機器の電源を切って行う
電源を切る
●本機や接続機器の故障の原因になります。

◆本機の内部に異物を入れないようにする
異物を入れない
●水、針、ヘアピン等が入ると、故障やショートの原因になります。

◆テレビやラジオ等の電気機器の側に置かない
他電気機器から離す
●本機が雑音を発する恐れがあります。
●本機が雑音を発したら、他の電気機器から十分に離すか、他のコンセントをご利用下さい。

◆電源コード、接続コード類はからまないように接続する
からまないようにする
●コードが破損し、火災、感電、ショートの原因になります。

◆ベンジンやシンナーで本機を拭かない
ベンジン／シンナー禁止
●色落ちや、変形の原因になります。
●清掃するときは、柔らかい布をぬるま湯につけて、よく絞ってから拭いて下さい。

◆本機や鍵盤蓋の上に乗ったり、圧力を加えない、物を置かない
上に乗らない
●変形したり、倒れる恐れがあり、故障や、けがの原因になります。
●熱いコップ等をのせると、鍵盤蓋が変形することがあります。

◆本機はハンマーアクション鍵盤を搭載しているため、特に次の点に注意してください。
●鍵盤の上に長期間重い物を置かない
●鍵盤に通常の演奏以上の負荷をかけない
●鍵盤の演奏に影響を与えます。
●故障の原因になります。

●ヘッドホン使用時、または音量下げて演奏の際は、構造上打鍵音（メカニズム音）が若干聞こえますが異常ではありません。ご了承ください。

●容易にコンセントの抜き差しができるよう、本機を電源コンセントの近くに設置してください。

●音色ボタンランプが消えていても、コンセントを差し込んだ状態であれば、機器に電源がつながっていますので感電に注意ください。

●地震等の際、転倒する可能性があります。市販の転倒防止金具等で転倒には充分注意して下さい。

●付属のACアダプター以外は使用しないで下さい。

■保証書について
●本製品をお買い求めの際、販売店で必ず保証書の手続きを行って下さい。保証書に販売店の印やお買い上げ日の記入が無い場合は、保証期間中でも修理が有償になることがあります。

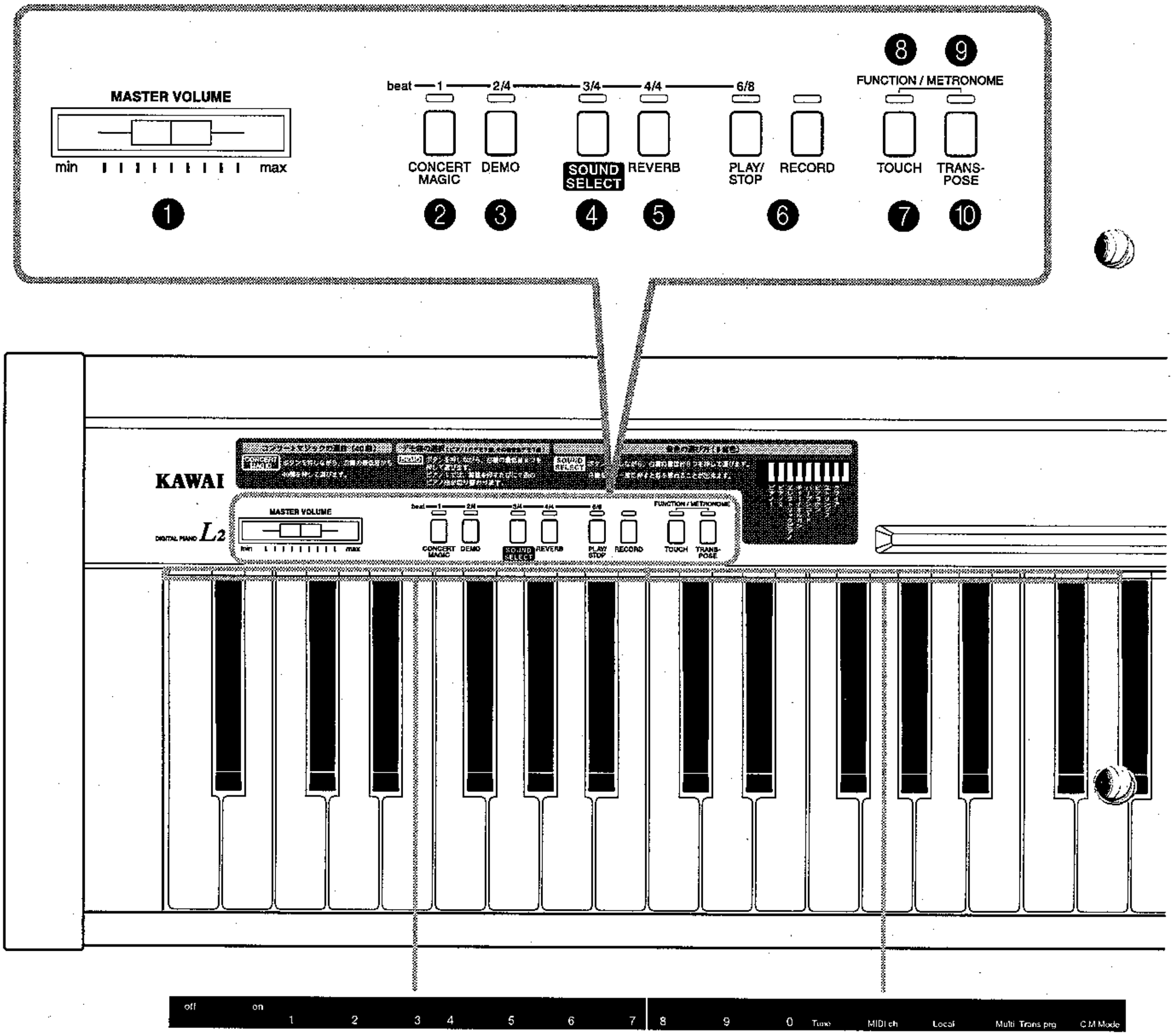
●保証書は、本取扱説明書と共に大切に保管下さい。

■修理について
●万一異常がありましたら直ちに電源スイッチを切り、本機の電源プラグを抜いて、購入店または弊社へご連絡下さい。

1. 各部の名称と働き

電子ピアノに付いている、ボタンなどの位置とその機能を説明します。

◇ 操作パネル



◇ 付属のファンクションシールの使用

本機には、ファンクションシールが付属されています。
設定モードなどで値を設定するときなどに、黒鍵の後ろ側に差しこんでおくと便利です。
シールの「ー (off)」を最低音の鍵盤に合わせて置きます。
シールになっていますので、貼り付けることもできます。

off on 1 2 3 4 5 6 7

8 9 0 Tune MIDI ch Local Multi Trans prg C.M.Mode

❶ **MASTER VOLUME（マスターボリューム）**
内蔵スピーカーやヘッドホンから出力される音量を調整します。
max 側にいくほど音量が大きくなり、min 側にいくほど音量が小さくなります。(P. 8 参照)

❷ **CONCERT MAGIC（コンサートマジック）**
鍵盤を弾くタイミングと強さに応じて内蔵曲を再生することができます。(P. 13 参照)

❸ **DEMO（デモ）**
デモ曲を演奏します。任意の曲を選択して演奏することができます。(P.12 参照)

❹ **SOUND SELECT（音色セレクト）**
音色を選択するボタンです。ボタンを押しながら最低音の白鍵8つを押して選びます。
ピアノが選ばれると、赤いランプが点灯します。それ以外の音色ではランプは点滅します。(P. 9 参照)

❺ **REVERB（リバーブ）**
音にリバーブ効果（残響効果）を与えることで、美しい響きが得られます。(P.11 参照)

❻ **レコーダー**
PLAY / STOP, RECORD の2つのボタンを使って、あなたの演奏を録音、再生することができます。(P.19 参照)

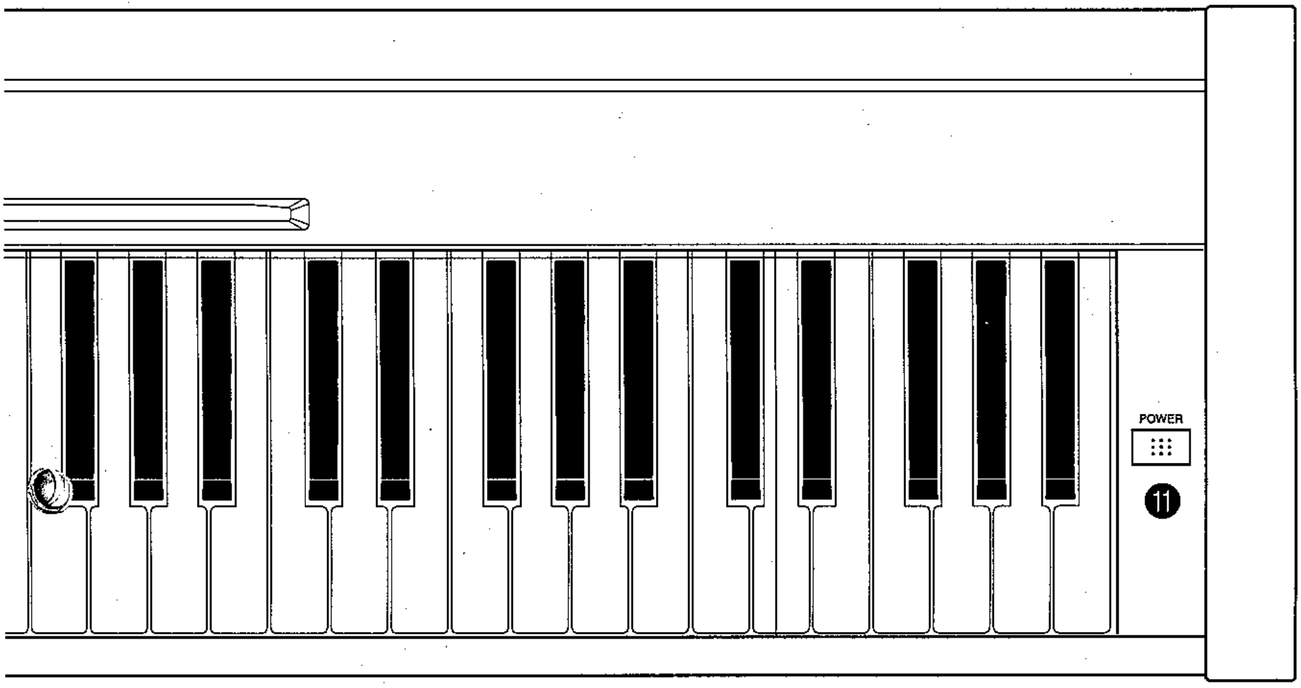
❼ **TOUCH（タッチ）**
タッチの感度を切り換えるボタンです。消灯でノーマルタッチです。(P.15 参照)

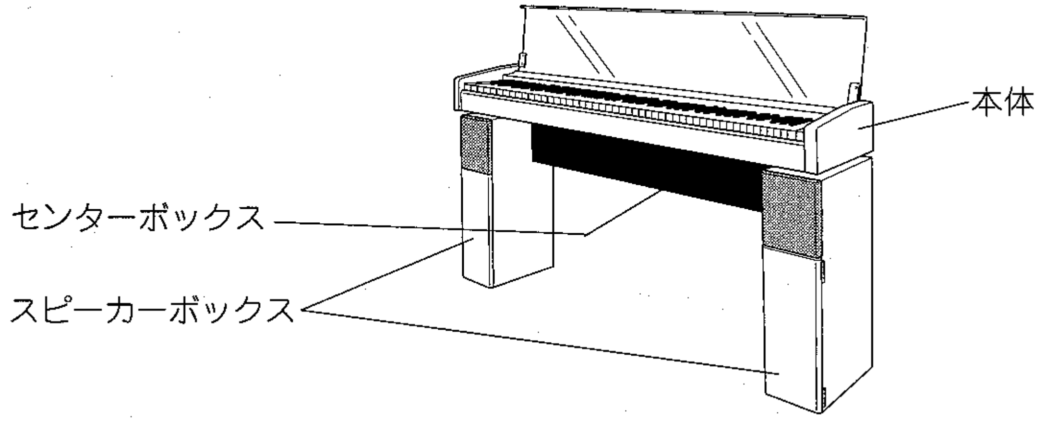
❽ **FUNCTION（ファンクション）**
TOUCHボタンとTRANSPOSEボタンを同時に押しながら鍵盤を押して、設定モードに入ります。(P.21 参照)

❾ **METRNOME（メトロノーム）**
TOUCHボタンとTRANSPOSEボタンを同時に押して、メトロノーム音を鳴らします。(P.17 参照)

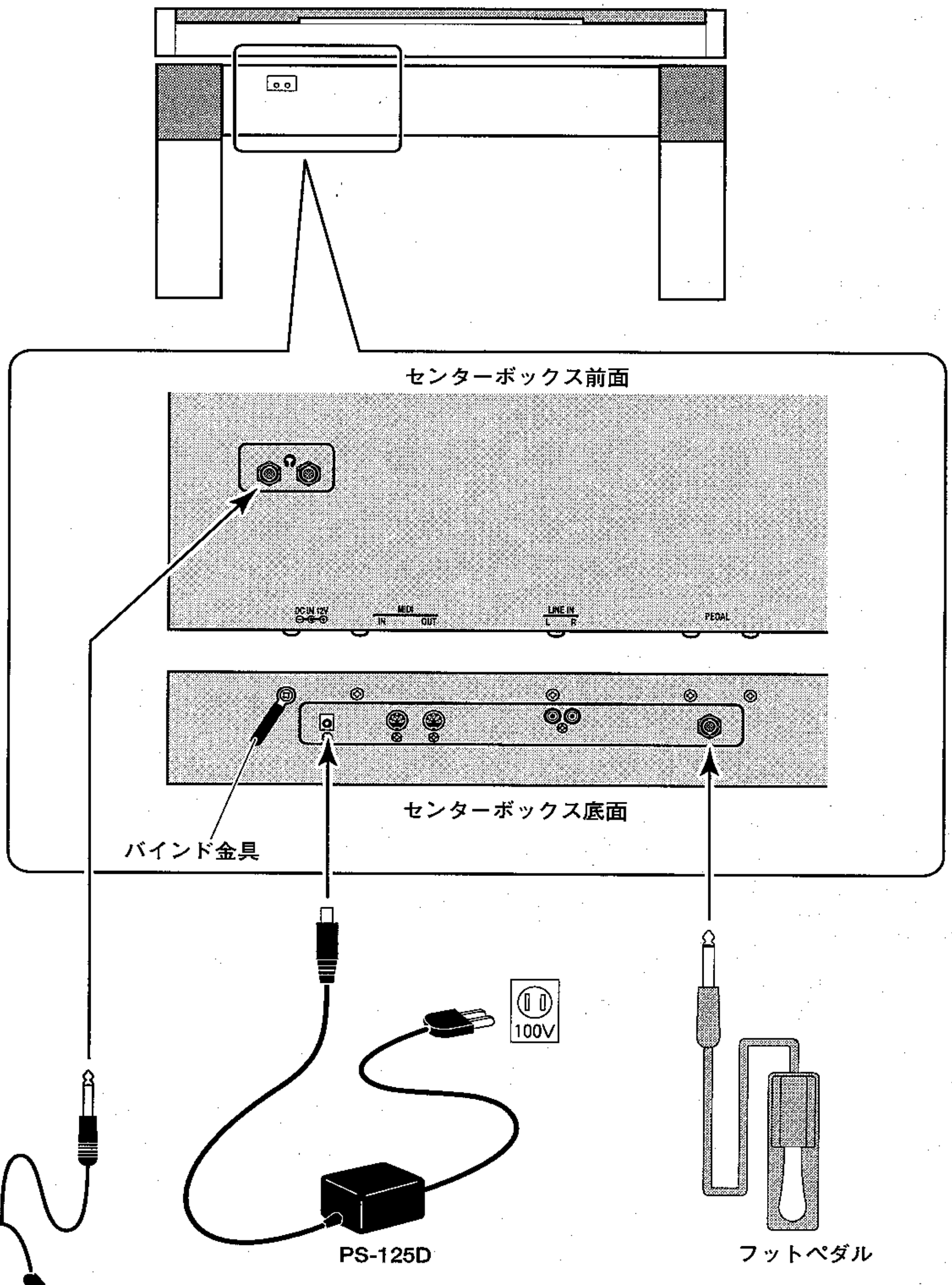
❿ **TRANSPOSE（トランスポーズ）**
弾き方を変えずに移調する機能です。調の異なる楽器とのアンサンブルや、歌の伴奏をする時などに便利です。(P.16 参照)

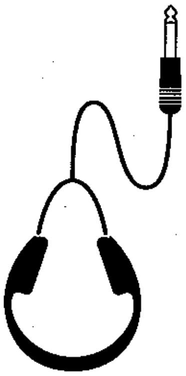
⓫ **POWER（電源スイッチ）**
電源をON / OFF するスイッチです。ご使用後は必ず電源スイッチを切ってください。(P.8 参照)





◇ACアダプター/フットペダル/ヘッドホンの接続





● A.Cアダプター
付属のA.Cアダプター（PS-125D）を接続してください。
コードをバインド金具で巻いて止めると抜けにくくなります。

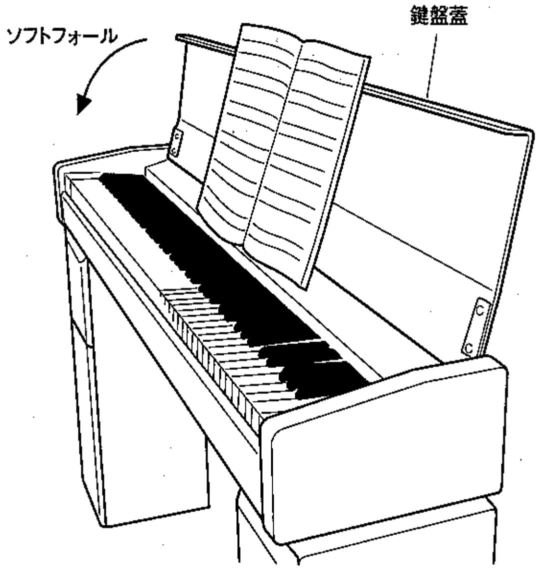
● ヘッドホン端子（2個）
付属のヘッドホン（SH-2）を接続する端子です。ヘッドホンを2つまで接続できます。

● フットペダル端子
・**ダンパーペダル**　音に余韻を与えます。
ピアノの音は、鍵盤を指で押すとハンマーが弦をたたき、音が発音しますが、指をはなすとダンパーが弦に触れ発音が止まります。
ダンパーペダルを踏むと指をはなしてもダンパーが弦に触れないため、音が止まらず豊かな響きが得られます。

・**ソフトペダル**
［オプションのF-2r（2本ペダル）を接続時の左側のペダル］
音量がわずかに下がると同時に音質がやわらかくなります。

◇ 譜面立て兼用鍵盤蓋の取扱い

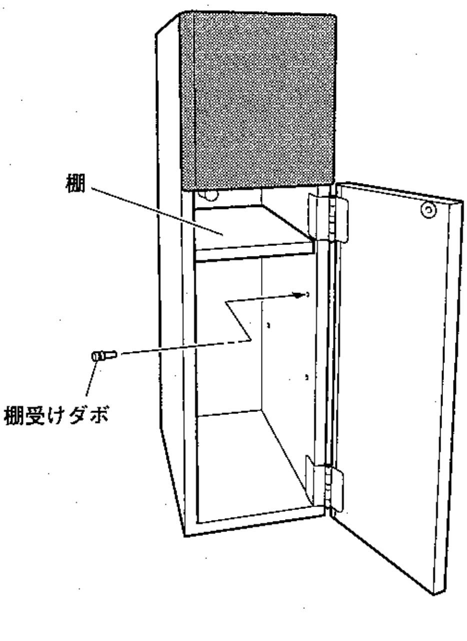
鍵盤蓋は開けたときには譜面台になります。
また、ソフトフォール機能があり、ゆっくり安全に閉まります。



⚠ 注意

- 鍵盤蓋に大きな力を加えないでください。鍵盤蓋が壊れたり、本体が転倒する恐れがあります。
- 鍵盤蓋の両面には保護シートが付いておりますので、必要に応じて、はがしてお使いください。
- 鍵盤蓋を閉めたときには物を乗せないでください。重いものや熱いコップなどをのせますと変形の原因になります。

スピーカーボックスの収納部には3段階に移動できる棚がついています。
お好みの高さに棚受けダボを移動してご利用ください。
図のように最上段に棚をセットすると下段に通常サイズ（菊倍判）の楽譜をピッタリ収納できます。



2. 演奏してみましょう

ここでは、電源を入れて音を出すまでの基本的な手順を説明します。

1）基本操作

□ *操作 1*

付属のACアダプターを本体のアダプター端子に差し込み、電源プラグをAC100Vのコンセントに差し込みます。

本体下面（センターボックス底面）にあるDC IN 12Vのところにアダプター端子を差し込みます。

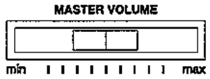
□ *操作 2*

POWER（電源）スイッチを押して電源をONにします。

電源を入れるとサウンドセレクトボタン
（SOUND SELECT）のランプが点灯します。

□ *操作 3*

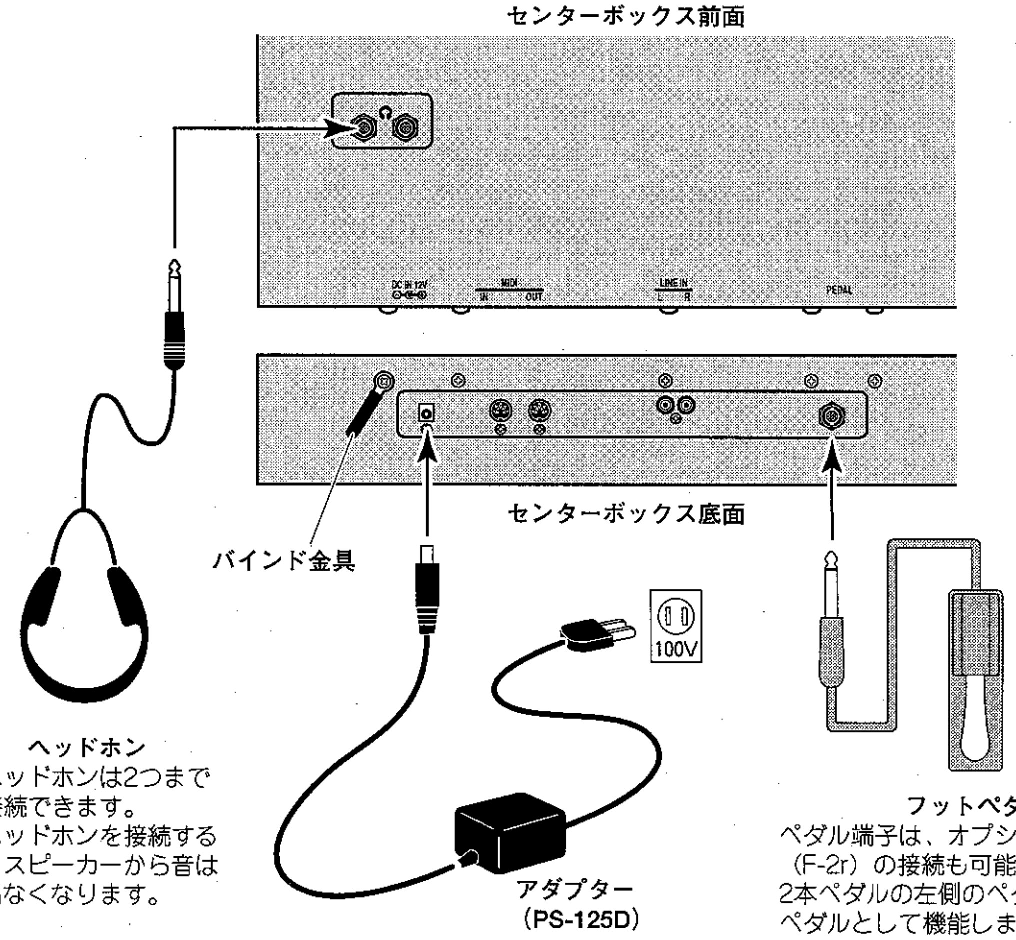
MASTER VOLUMEレバーを中央付近にセットします。



この状態でピアノ1の音色で演奏をすることができます。

□ *操作 4*

フットペダルやヘッドホンを使用する場合は、各々PEDAL端子、🎧（ヘッドホン）端子に接続します。



ヘッドホンは2つまで接続できます。
ヘッドホンを接続するとスピーカーから音は出なくなります。

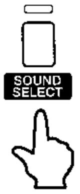
ペダル端子は、オプションの2本ペダル（F-2r）の接続も可能です。
2本ペダルの左側のペダルは、ソフトペダルとして機能します。

◇音色の選び方

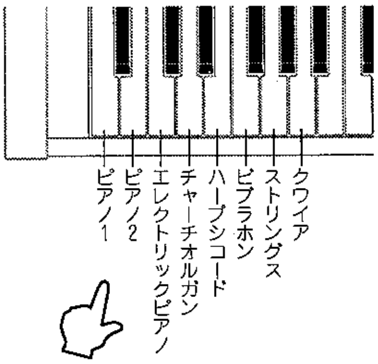
音色の選び方は、次の3通りあります。
内蔵音色は8音色です。電源ON時はピアノ1が選ばれています。

◆音色の選び方　1

サウンドセレクトボタンを押しながら、白鍵の最低音から8鍵を押して選択します。



押しながら



白鍵を押します。

ピアノ1を選択すると、ランプが点灯します。
それ以外だと、ランプは点滅します。

◆音色の選び方　2

サウンドセレクトボタンを押すだけで、内蔵音色を順に選択することができます。

電源ON　 　点灯 ピアノ1

1回押すと　ピアノ2　（点滅）

2回押すと　 　エレクトリックピアノ　（点滅）

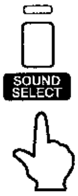
3回押すと　 　チャーチオルガン　（点滅）

⋮　⋮　⋮　⋮

7回押すと　 　クワイア　（点滅）

8回押すと　 　ピアノ1　（点灯）

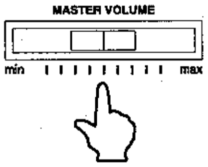
◆音色の選び方　3

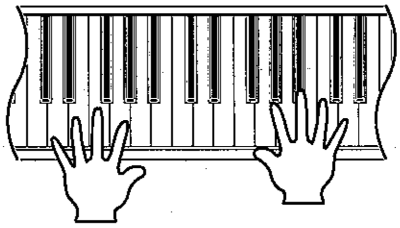


サウンドセレクトボタンを1秒以上押しつづけると、今どんな音色が選ばれていても、ピアノ1に戻ります。
ランプも点灯に戻ります。

鍵盤を弾いてみましょう。

“音色の選び方” で選んだ音色が発音します。
MASTER VOLUMEレバー でお好みの音量に設定して下さい。





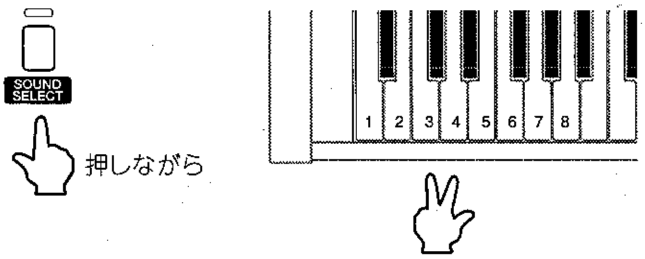
■複数の鍵盤を同時に押した時の発音数（同時発音数）は、最大32音です。

2）デュアル演奏

デュアル演奏では 2つの音色を重ね合わせて演奏する事ができます。鍵盤を弾けば、選んだ2つの音色が同時に発音し、音に独特の厚みを与えることができ音楽表現の幅が拡がります。

□操作

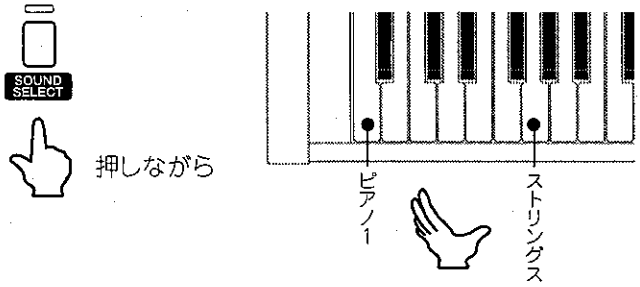
サウンドセレクトボタンを押しながら、白鍵の最低音から8つの鍵盤のうち2つを同時に押すと、鍵盤に割り当てられた2つの音色を重ねることができます。（音色割り当てはP.9 参照）



□例

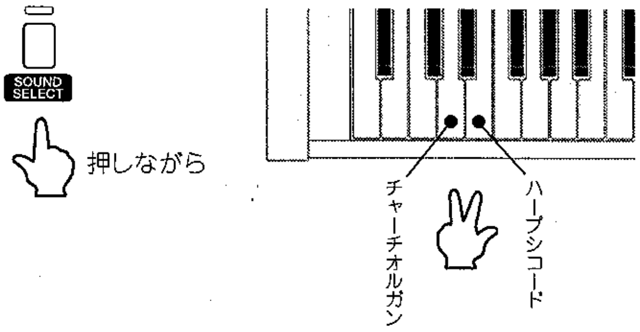
◆ピアノ１とストリングスを重ねる場合

サウンドセレクトボタンを押しながら、白鍵の最低音（ラ）と7番目の（ソ）を同時に押します。



◆チャーチオルガンとハープシコードを重ねる場合

サウンドセレクトボタンを押しながら、白鍵の最低音から４番目（レ）と５番目の（ミ）を同時に押します。



元の１音色に戻す場合は、サウンドセレクトボタンを押しながら、鍵盤を１つだけ押して１つの音色を選び直します。

3）リバーブ

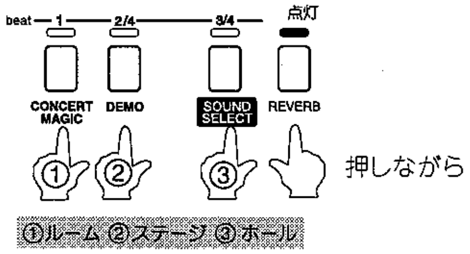
本機では、各音色毎にリバーブ効果（残響効果）を加えることができます。
リバーブの深さを３段階（ルーム、ステージ、ホール）選択することができます。

REVERB

◇音にリバーブ効果を加える

□ ***操作1***

REVERBボタンを押しながら、CONCERT MAGIC, DEMO, SOUND SELECTのいずれかのボタンを押します。



CONCERT MAGIC, DEMO, SOUND SELECTボタンを押して、ルーム，ステージ，ホールの選択をします。
REVERBボタンのランプが点灯し、音にリバーブ効果を加えます。
再度REVERBボタンを押してランプを消灯させれば、リバーブ効果が消えます。

ルーム	部屋で弾いているような響きです。
ステージ	ステージで弾いているような響きです。
ホール	ホールで弾いているような響きです。

＊ルーム→ステージ→ホールの順で残響音が長くなります。

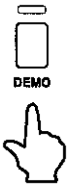
4）デモ曲の演奏

本機には、各内蔵音色毎にその音色を生かしたデモ曲（ピアノ１の音色デモを７曲、他の音色は各１曲）を 14 曲内蔵しています。　各音色のデモ曲は、以下の通りです。

●ピアノ1	：幻想即興曲/ショパン	●ピアノ2	：オリジナル
	アラベスク第一番/ドビュッシー	●エレクトリックピアノ	：オリジナル
	トルコ行進曲/モーツァルト	●チャーチオルガン	：トッカータ/ジグー
	エリーゼのために/ベートーベン	●ハープシコード	：フランス組曲第6番/バッハ
	別れの曲/ショパン	●ビブラホン	：オリジナル
	花の歌/ランゲ	●ストリングス	：四季より「春」/ヴィヴァルディ
	貴婦人の乗馬/ブルグミュラー	●クワイア	：オリジナル

□*操作1*

DEMOボタンを押します。

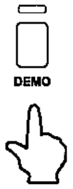


DEMOボタンのランプが点灯します。
そのまま何も操作しなければ、ピアノ１の音色デモ曲が演奏されます。
ピアノ１の７曲のデモ曲の演奏後、各音色のデモ曲が順不同に演奏されます。
再度DEMOボタンを押してランプが消灯するまで演奏を続けます。

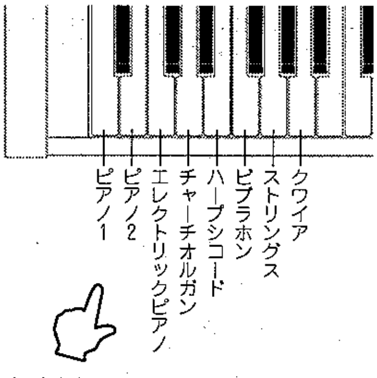
□*操作2*

操作1でデモ曲演奏中に、DEMOボタンを押しながら、音色選択と同様に白鍵の最低音8個のうち1つを押して、曲を変更することができます。

ピアノ１のデモ曲は７曲内蔵しており、順に再生されますが、DEMOボタンを押しながら、最低音の鍵盤（ピアノ 1）を繰り返し押すことにより、７曲中の次の曲にジャンプすることができます。



押しながら



白鍵を押します。

□*操作3*

デモ曲演奏中に音色セレクトボタンを押しても、次の音色のデモにジャンプさせることができます。

□*操作4*

再度、DEMOボタンを押せば、ランプが消灯し、デモ曲の演奏は停止します。

5) コンサートマジック

曲	鍵盤	グループ
1. きらきら星	ラ（最低音）	●子供の曲
2. ロンドン橋	シ	
3. ふるさと	ド（C0）	
4. 山の音楽家	レ	
5. もみじ	ミ	
6. ゆき	ファ	
7. 10人のインディアン	ソ	
8. さくらさくら	ラ	
9. わらの中の七面鳥	シ	
10. 森のくまさん	ド（C1）	
11. 聖者の行進	レ	●アメリカのクラシック音楽
12. おじいさんの古時計	ミ	
13. リパブリック賛歌	ファ	
14. ロンドンデリーの歌	ソ	
15. ケンタッキーの我が家	ラ	
16. 草競馬	シ	
17. 線路は続くよどこまでも	ド（C2）	
18. ウィリアムテル序曲	レ	●クラシック音楽
19. 天国と地獄	ミ	
20. エンターティナー	ファ	
21. 花のワルツ	ソ	
22. スケーターズワルツ	ラ	
23. 闘牛士の歌	シ	
24. ブラームスの子守歌	ド（C3）	
25. アメリカンパトロール	レ	
26. 眠りの森の美女	ミ	
27. ガボット	ファ	
28. 軍隊行進曲	ソ	
29. 双頭のわしの旗のもとに	ラ	
30. エリーゼのために	シ	
31. 結婚行進曲	ド（C4）	
32. 婚礼の合唱	レ	
33. おめでとうクリスマス	ミ	●クリスマスの曲
34. ジングルベル	ファ	
35. もろ人こぞりて	ソ	
36. きよしこの夜	ラ	
37. フニクリフニクラ	シ	●世界の民謡
38. こぎつね	ド（C5）	
39. アニーローリー	レ	
40. サンタルチア	ミ	
	ファ	

これらの曲が掲載された楽譜集「コンサートマジック曲集 Vol. 2」（¥2, 600）が発売されております。楽譜掲載88曲中に、これらの40曲が全て含まれています。
同封の「楽譜集のご案内」をご参照ください。又、お申し込みは同封の払込用紙をご利用ください。
コンサートマジックの魅力的な世界が一層広がります。

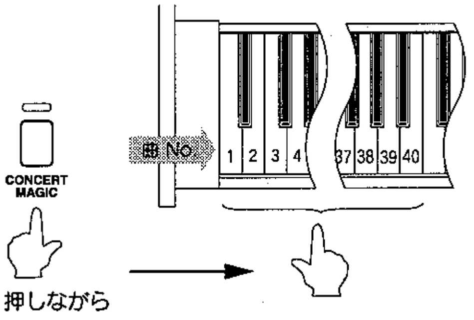
コンサートマジックでは､鍵盤を押す度に曲の演奏を進めていくことができます。誰にでも、(高度な曲が弾けない人にも）鍵盤を使って演奏を楽しむことができます。
本機には、コンサートマジック用に5グループ,40曲の演奏曲を内蔵しています。

◇コンサートマジック曲の選択

40曲のコンサートマジック曲は、鍵盤（白鍵）に割り当てられており（左図参照）、この鍵盤を使って曲を選択することができます。

◇ *操作1*

CONCERT MAGICボタンを押しながら曲が割り当てられている鍵盤を押します。



■曲名とその割り当てられている鍵盤については、左図を参照ください。

◇コンサートマジック曲の演奏

鍵盤をタクトのように拍子をとるようにたたけば演奏を進めることができます。
また鍵盤を弾くタッチによって強弱をつけることもできます。
テンポの変化をつけることもできます。（モード 1）

また、少し難しいですが、音符のタイミング通りに鍵盤をたたいて進めるモード2に切り換えることもできます。（P.26 参照）

◇ *操作1*

コンサートマジック曲を選択した後、鍵盤を弾きます。

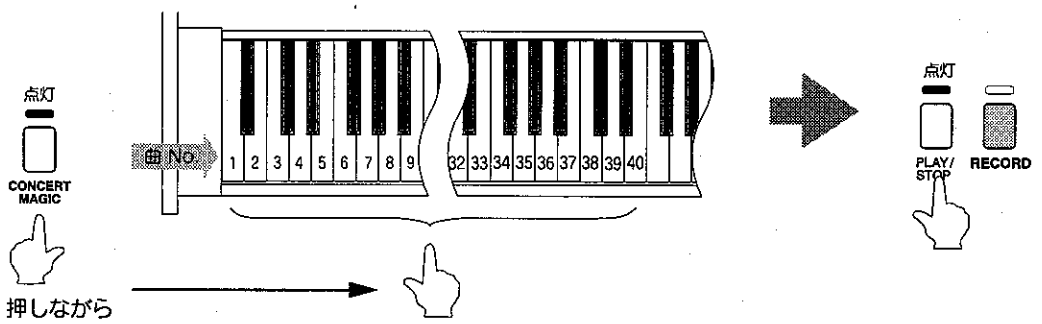
■通常の音色変更の場合と同様の操作で、音色を変更することができます。

◇ コンサートマジック曲の再生

コンサートマジック曲は、普通のデモ曲として再生することができます。
どんな曲かまず聴いてみたいときに便利な機能です。

◇操作1

CONCERT MAGICボタンを押しながら鍵盤を押して選曲した後、PLAY/STOPボタンを押します。

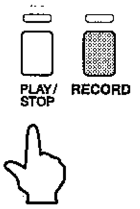


選択されている曲が繰り返し再生されます。

◇操作2

演奏を止めるには、もう一度PLAY/STOPボタンを押します。

PLAY/STOPボタンのランプが消灯します。



◇ その他の再生方法 （チェイン再生/グループ再生/ランダム再生）

※チェイン再生

CONCERT MAGICボタンを押した後、鍵盤で曲選択をせずにPLAY/STOPボタンを押します。

1曲目から40曲目まで順番に繰り返し再生します。

※グループ再生

CONCERT MAGICボタンを押しながら鍵盤を押して選曲し、そのまま（CONCERT MAGICボタンを離さないで）DEMOボタンを押します。

この場合、選択した曲が含まれるグループの曲を順番に繰り返し再生します。
例えば、No.11の「聖者の行進」を選ぶと、この曲から演奏が開始され、No.11～No.17のグループ「アメリカのクラシック音楽」を繰り返し再生します。

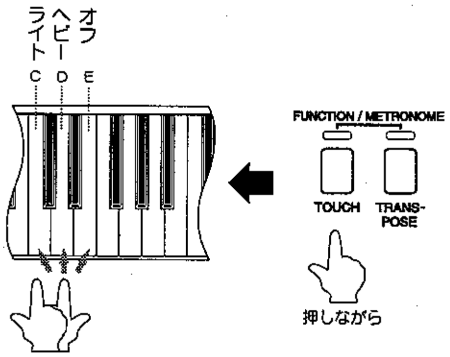
※ランダム再生

CONCERT MAGICボタンを押しながら、DEMOボタンを押します。

全内蔵曲を対象に、順不同に曲の再生をし続けます。
但し、1曲目は「きらきら星」です。

6）タッチカーブ・セレクト

ピアノでは、鍵盤を弾く力をだんだん強くしていくと、音量もだんだん大きくなっていきます。
鍵盤を弾く強さと音量の関係を線グラフにしたものがタッチカーブです。
指の強さ、お好みに合わせて、４つのタッチカーブが選択できます。



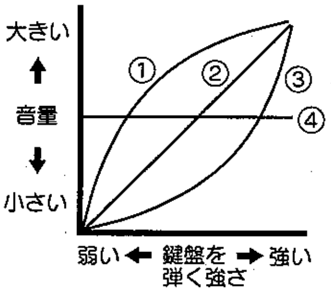
□ *操作１*

TOUCHボタンを押しながら、鍵盤C(ド)/D(レ)/E(ミ)のいずれかを押します。（どのオクターブのドレミでも構いません）

①ライト［鍵盤C(ド)を押す］
弱いタッチで弾いても大きな音がでます。
小さなお子様や、年配者向きのタッチカーブです。

②ノーマル［TOUCHボタン消灯時］
アコースティックピアノと同程度のタッチで音量が変化します。

③ヘビー［鍵盤D(レ)を押す］
強いタッチで弾かないと大きな音がでません。
指の力の強い人や練習向きのタッチカーブです。

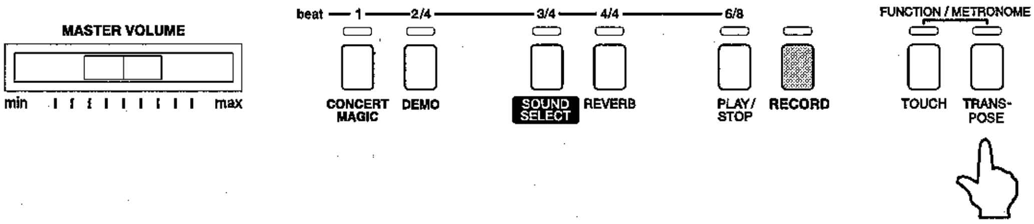


④オフ［鍵盤E(ミ)を押す］
鍵盤を弾く強さに関係なく常に一定の大きさで発音します。
オルガンやハープシコードの音色で演奏する時などに使用します。

ここで設定したタッチカーブは、再度TOUCHボタンを押して点灯させたときに有効となります。
TOUCHボタン消灯時は、ノーマルに設定されます。
電源を入れた時は、ここで設定した値はリセットされ、自動的に“ライト”に設定されます。よって電源オン後にタッチボタンを押すとライトのタッチカーブになります。

7) トランスポーズ

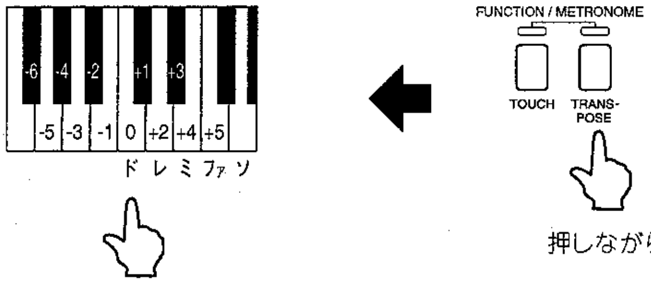
調の異なる楽器とのアンサンブル演奏や歌の伴奏をするときに、弾き方を変えずに簡単に移調できます。
本機では、TRANSPOSE ボタン を押しながら鍵盤を押すことで、−6半音(F#)〜+5半音(F)まで設定できます。



□ *操作1*

TRANSPOSE ボタン を押したまま、変更したい調の鍵盤を押します。

全ての鍵盤で設定できます。
オクターブの位置は関係ありません。



□ *操作2*

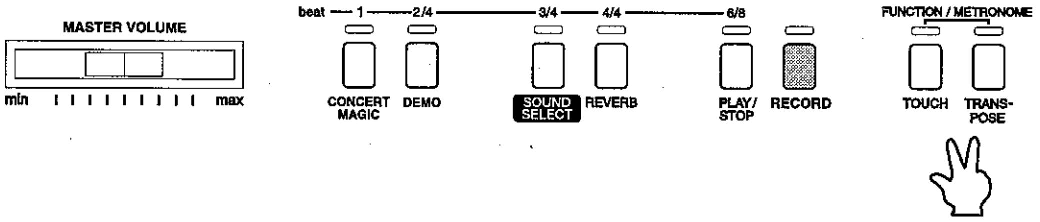
TRANSPOSE ボタン を離します。

- ***TRANSPOSE ボタンのランプの点灯は、トランスポーズ オン（移調）状態を表わします。消灯時は、オフの状態です。***
- ***トランスポーズを解除したい時は、もう一度 TRANSPOSE ボタン を押してランプを消灯します。***
- ***TRANSPOSE ボタン のランプは、ハ長調（C）以外のキーにセットされている時に点灯します。***

電源を入れた時は、ここで設定した値はリセットされ、自動的に “0” に設定されます。よって電源オン後にトランスポーズボタンを押しても、設定値が0の為、点灯しません。

8) メトロノーム

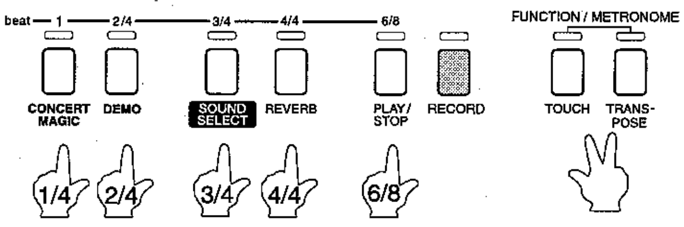
メトロノームを使って練習しましょう。
METRONOME用の2つのボタン(TOUCHボタンとTRANSPOSEボタン)を同時に押して指をはなすと、メトロノームが鳴ります。
本機では、1(1/4), 2/4, 3/4, 4/4, 6/8の拍子が設定できます。



◇ 拍子の設定

□操作1

METRONOME用の2つのボタン(TOUCHボタンとTRANSPOSEボタン)を押しながら、次のいずれかの音色ボタンを押し、拍子を指定します。



■ *4/4拍子のメトロノームを鳴らす場合は、METRONOME用の2つのボタンを押しながら、REVERBボタン を押します。*

■ *1(1/4)拍子選択時(METRONOME用の2つのボタンを押しながらCONCERT MAGICボタンを押す)には、アクセント(チーン音)が無いクリック音だけになります。*

■ *電源オン時、METRONOME用の2つのボタンを押した後、拍子を指定しなければ、自動的に、1(1/4)拍子,テンポ120のメトロノームが発音します。*

◇ テンポの設定

□操作1

メトロノームのテンポ変更は、METRONOME用の2つのボタンを押しながら、鍵盤を押します。

付属のファンクションシールを使うと便利です。 (Page...4参照)

鍵盤には、「+,−,0〜9」が割り当てられています。(P.18参照)
設定は、テンポの値を2桁〜3桁で入力します。
♩= 30〜300の範囲で設定できます。
テンポの値の初期値は ♩= 120です。

□操作2

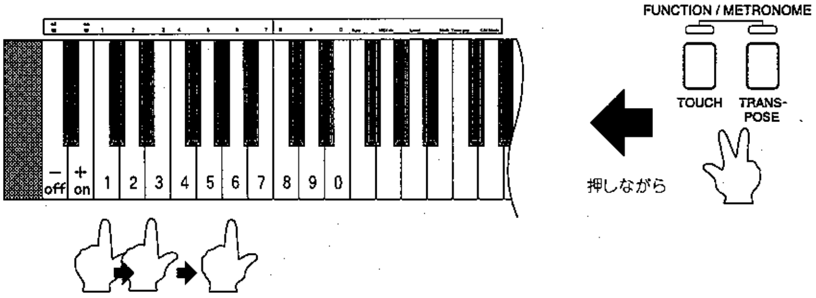
再度、METRONOMEボタンを押して消灯させると、メトロノームが停止します。

◆テンポを「136」に設定したい場合

□操作1

METRONOME用の2個のボタンを押しながら、「1」「3」「6」の鍵盤を押します。

押している METRONOME ボタンを離すと設定が完了します。
また－/＋キーをくり返し押すことによって現在のテンポから少しずつテンポを調整することができます。

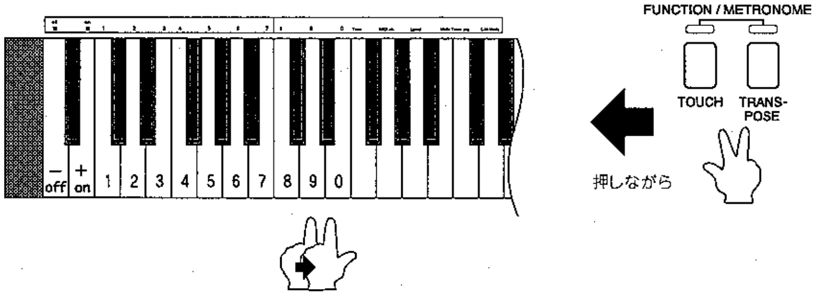


◆テンポを「90」に設定したい場合

□操作1

METRONOME用の2個のボタンを押しながら、「9」「0」の鍵盤を押します。

押している METRONOME ボタンを離すと設定が完了します。
また－/＋キーをくり返し押すことによって現在のテンポから少しずつテンポを調整することができます。



3. 録音・再生

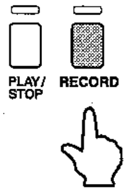
1) 録音

本機では、自分の演奏を録音し、再生することができます。

◇ 録音をしましょう

□操作1

RECORD ボタン を押します。

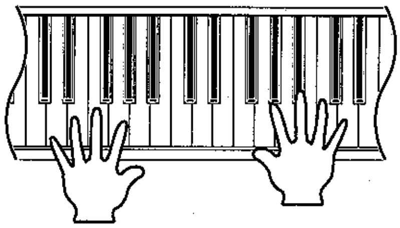


RECORD ボタンが点滅します。

□操作2

鍵盤を弾いて録音をスタートします。

鍵盤を弾くと自動的に録音がスタートします。
このとき、RECORDボタンとPLAY/STOP ボタン のランプが点灯します。



■ *PLAY/STOP ボタン を押しても録音を開始できます。*

□操作3

演奏が終わったら PLAY/STOP ボタン を押して録音を終了します。

RECORD ボタン とPLAY/STOP ボタン のランプが消え録音が停止します。

■ *レコーダーの総記憶容量は、約1,800音です。録音中に記憶容量が一杯になったときは、録音が中止されます。　中止される直前までの演奏は録音されます。*

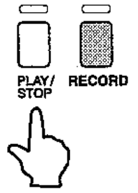
■ *レコーダーに記憶した内容は、本体の電源を切っても消えませんが、一度電源を切ってから一週間ほど電源を入れないでおくとレコーダーの内容が消えてしまう可能性がありますので、ご注意ください。*

2）再生

録音した曲を再生します。

□ *操作 1*

PLAY/STOP ボタンを押します。



今録音した曲が再生されます。

■ ***再度 RECORD（録音）ボタンを押して、録音を開始すると、前に録音された曲は消去され、新しく弾いた曲が録音されます。***

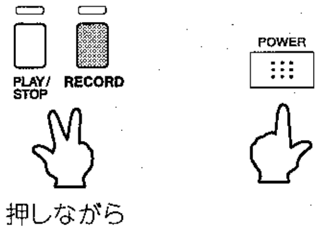
3）録音内容の消去

録音した曲を消去したい場合、まず電源スイッチを切ります。

□ *操作 1*

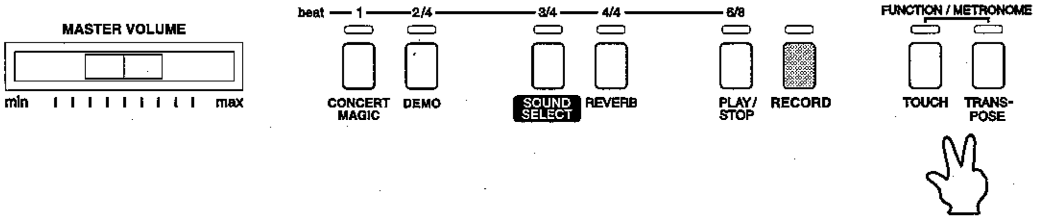
PLAY/STOP ボタンと RECORD ボタンを押しながら、電源を ON にします。

録音した曲が消去されます。



4. 設定モード（ファンクション）

本機には、ピアノの演奏を楽しむために、いろいろな状態を設定することができます。
これを " 設定モード " といいます。



設定メニューは、表の７項目です。

●設定項目	●初期値
①チューニング	A4=440.0Hz
②MIDI送信・受信チャンネル	1ch
③ローカルコントロール オン/オフ	オン
④マルチ・ティンバー・モード オン/オフ	オフ
⑤（本体の音色スイッチによる）プログラム［音色］ナンバー送信 オン/オフ	オン
⑥（Functionボタンの10キーによる任意の）プログラム［音色］ナンバー送信	—
⑦コンサートマジックの演奏モード1/2の変更	モード1

■*電源を入れたときは、ここで設定した値はリセットされ、自動的に初期値に設定されます。*

◇設定モードの基本的な使い方

□*操作1*

FUNCTIONボタン（TOUCHボタンとTRANSPOSEボタン）を押しながら①〜⑦の鍵盤を押して設定モードに入ります。

注）CONCERT MAGICボタンまたはDEMOボタン点灯中は設定モードに入れません。

□*操作2*

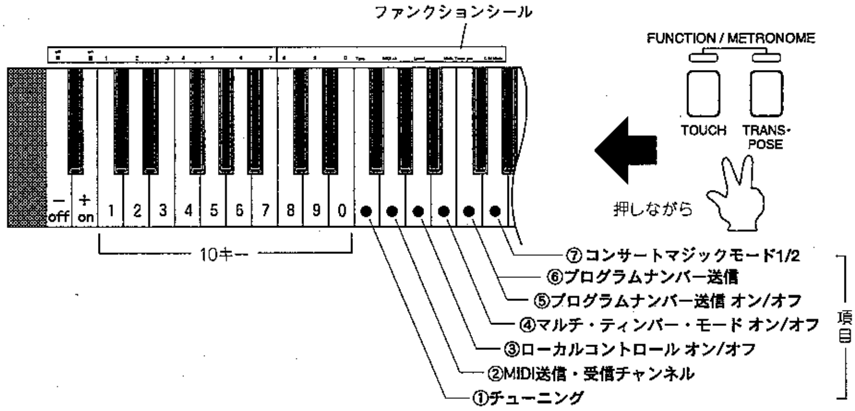
鍵盤に割り当てられている設定項目を選びます。

各項目の設定モードに入ります。①〜⑦

付属のファンクションシールを使うと便利です。（Page...4参照）

□*操作3*

次に鍵盤に割り当てられている10キー、もしくはー（off）/＋（on）キーで値を入力します。



■*操作２と操作３を繰り返すことで、続けて他の項目の設定ができます。*

□*操作4*

FUNCTION用のボタンから手をはなせば、設定モードから抜けます。

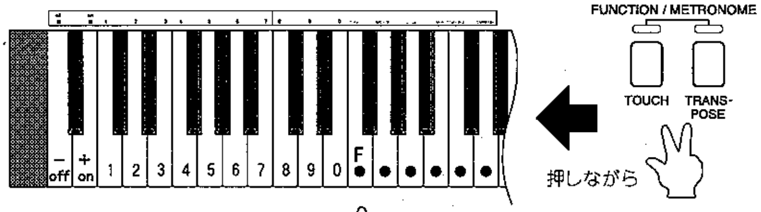
① チューニング

チューニング調整は、他の楽器とピッチ（音程）を合わせるときに行います。
電源を入れた時は、A4=440Hz に設定されます。

□ *操作 1*

FUNCTION 用の 2 つのボタンを押しながら、鍵盤 F（ファ）［ファンクションシールの「Tune」］を押します。

この鍵盤F(ファ)を押している間、
オルガンの音でA4=440Hzの音が
発音します。



□ *操作 2*

鍵盤上の 10 キー、もしくは－（off）/＋（on）キーで値を設定します。

427～453Hz の範囲で設定できます。
－（off）/＋（on）キーでは、0.5Hz 刻みずつ値を変更します。

付属のファンクションシールを使うと便利です。（Page...4参照）

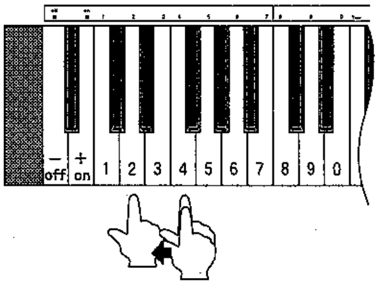
□ *操作 3*

設定完了後、TOUCH ボタンか TRANSPOSE ボタンを押せば、設定モードから抜けます。
ここで設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

◆「A4=442Hz」に設定する場合

□ *操作 1*

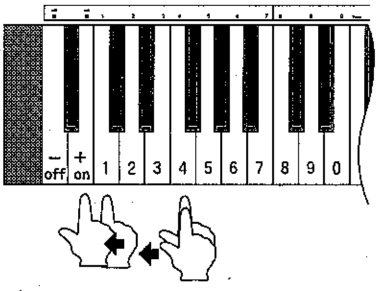
FUNCTION 用の 2 つのボタンを押しながら、鍵盤 F（ファ）を押し、鍵盤「4」「4」「2」を押します。



◆「A4=441.5Hz」に設定する場合

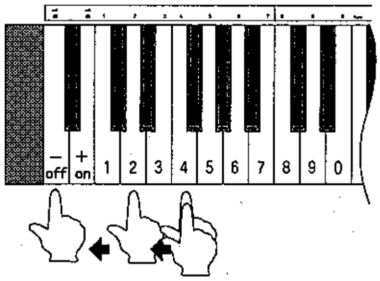
□ *操作 1*

FUNCTION 用の 2 つのボタンを押しながら、鍵盤 F（ファ）を押し、鍵盤「4」「4」「1」を押し、さらに「＋」を押します。



もしくは、

FUNCTION 用の 2 つのボタンを押しながら、鍵盤 F（ファ）を押し、鍵盤「4」「4」「2」を押し、さらに「－」を押します。



◇ MIDI 機能の使い方

■ MIDI について

MIDI について簡単に説明します。
MIDI（ミディ）とは、Musical Instrument Digital Interfaceの略称で、シンセサイザーや シーケンサー などの電子楽器間を接続し、お互いの情報をやりとりするための世界統一規格です。

本機のMIDI端子は、IN, OUT の2種類があります。いずれも MIDI専用ケーブルで接続します。

IN	:	鍵盤情報や音色情報を受信します。
OUT	:	鍵盤情報や音色情報を送信します。

MIDI には、チャンネルというものがあります。チャンネルには、受信チャンネルと送信チャンネルの 2 種類があり、通常の場合、MIDI 機能をもった楽器はこの両者を備えています。
受信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器から情報を受信する場合のチャンネルで、送信チャンネルとは、ある楽器が他の楽器へ情報を送信する場合のチャンネルです。
送信、受信チャンネルが一致した楽器同志で情報のやりとりができます。

■外部機器などを使っての録音 / 再生

本体だけでも演奏の録音 / 再生が可能ですが、外部シーケンサーを MIDI 接続しても電子ピアノの演奏を録音し、それを再生することができます。また、電子ピアノの設定をマルチティンバーオン（P.25 参照）にして録音/再生を行えば、ピアノ、ハープシコード、ビブラホンなど複数の音色によるアンサンブル演奏を楽しむことができます。

その他、外部機器との接続は、P.27 参照ください。

◇ 本機 MIDI 機能

本機の MIDI 機能は、以下の通りです。

◆ 鍵盤情報の送信・受信
電子ピアノを弾いてシンセサイザー等から音を出したり、その逆が可能です。

◆ 送信・受信チャンネルの設定
送信受信チャンネルを 1 ～ 16 の範囲で設定することができます。

◆ プログラム（音色）ナンバーの送信
電子ピアノと MIDI で接続したシンセサイザー等の音色（プログラムされた音色）を電子ピアノ側の操作で変えたり、その逆が可能です。

◆ ペダル情報の送信・受信
付属ペダル（F-1r）接続時、ダンパーペダルのオン / オフ情報の送信・受信ができます。
オプションのペダル（F-2r : 2本ペダル）を使用すれば、ソフトペダルのオン / オフ情報も送受信できます。

◆ ボリューム情報の受信
シンセサイザー等を弾いて、電子ピアノの音を出しているとき、シンセサイザーで電子ピアノの音量をコントロールすることができます。

◆ マルチティンバーの設定
電子ピアノが受信楽器になっているとき、複数の異なるチャンネルで鍵盤情報を受信して、各々別の音色を出すことが出来ます。

◆ エクスクルーシブデータの送信・受信
フロントパネルの操作や設定モードで変更した設定をエクスクルーシブデータとして送信受信ができます。

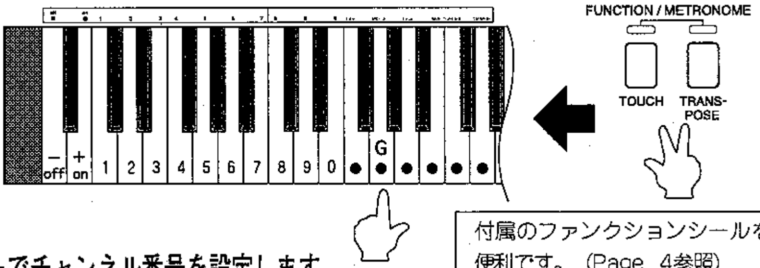
◆ L2 本体のレコーダーの再生情報の送信
レコーダーに録音した演奏を、MIDI で接続した電子楽器で鳴らしたり、外部シーケンサーに録音することができます。

② MIDI送信・受信チャンネル

接続されたMIDI楽器といろいろな情報をやりとりするために楽器同士のチャンネルを合わせておくことが必要です。
チャンネルは、送信チャンネルと受信チャンネルの２種類があります。本機では１つのチャンネルを設定してそれが送信・受信両チャンネルを兼ねます。

□ *操作1*

FUNCTION 用の2つのボタンを押しながら、鍵盤G（ソ）［ファンクションシールの「MIDI ch」］を押します。



付属のファンクションシールを使うと便利です。（Page...4参照）

□ *操作2*

鍵盤上の10キーでチャンネル番号を設定します。

MIDI チャンネルは、１～16の間で設定できます。
電源を入れたときは、１チャンネルに設定されます。

入力は、必ず２桁で行います。
９チャンネルに設定する場合は、「0」「9」と入力します。

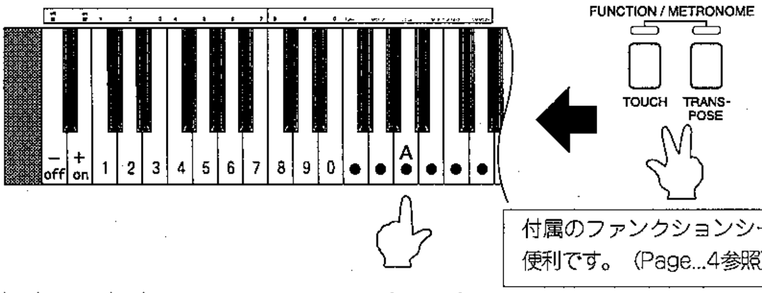
設定完了後、FUNCTION 用の２つのボタンから手をはなせば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

③ ローカルコントロール オン／オフ

ここでは、本体の鍵盤を弾いて本体の音を出すか、出さないかの設定をします。
ローカルコントロールがオンのときは、通常通り鍵盤を弾けば本体の音が鳴ります。
一方、ローカルコントロールがオフの時は、鍵盤を弾いても本体の音は鳴らずMIDI 情報をMIDI OUT します。
このとき、本体の音はMIDI 情報を受信したときのみ鳴ります。

□ *操作1*

FUNCTION 用の2つのボタンを押しながら、鍵盤A（ラ）［ファンクションシールの「Local」］を押します。



付属のファンクションシールを使うと便利です。（Page...4参照）

□ *操作2*

鍵盤上の－（off）/＋（on）キーでオフ/オンを設定します。

電源を入れた時は、オンに設定されます。

設定完了後、FUNCTION 用の２つのボタンから手をはなせば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

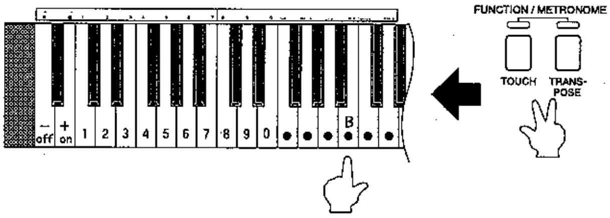
④ マルチティンバー・モード オン/オフ

通常は、設定されたMIDIチャンネル（1～16のどれか1つ）で情報を送受信しますが、マルチティンバー・モードをオンすることにより、複数のMIDIチャンネルを受信し、その受信したプログラムナンバーに対応した異なる音色を同時に出すことができます。（受信したプログラムナンバーに対応した音色は下表の通りです。）この機能により、外部のシーケンサーを使って、本機1台で複数の音色（マルチティンバー）によるアンサンブル演奏が可能です。

（マルチティンバーモードオンの時、10chで受信したデータは発音しません。）

□ *操作1*

FUNCTION用の2つのボタンを押しながら、鍵盤B（シ）［ファンクションシールの「Multi」］を押します。



付属のファンクションシールを使うと便利です。（Page...4参照）

◆音色に対応する送受信プログラムナンバー

音　色	送受信ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ・ﾅﾝﾊﾞｰ	
	ﾏﾙﾁﾃｨﾝﾊﾞｰ ON時	ﾏﾙﾁﾃｨﾝﾊﾞｰ OFF時
ピアノ1	1	1
ピアノ2	2	2
エレクトリックピアノ	5	3
チャーチオルガン	20	4
ハープシコード	7	5
ビブラホン	12	6
ストリングス	49	7
クワイア	53	8

□ *操作2*

鍵盤上の－（off）/＋（on）キーでオフ/オンを設定します。

電源を入れた時は、オフに設定されます。

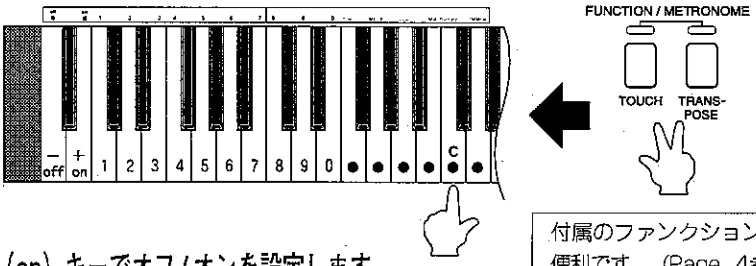
設定完了後、FUNCTION用の2つのボタンから手をはなせば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

⑤ プログラム（音色）ナンバー送信 オン/オフ

音色を切りかえたとき、プログラムナンバーの送信をするかしないか（オン/オフ）を設定することができます。本機では、プログラムナンバー送信オンに設定すれば、音色を切り替えるたびに、上表に対応したプログラムナンバーを送信します。

□ *操作1*

FUNCTION用の2つのボタンを押しながら、鍵盤C（ド）［ファンクションシールの「Trans prg」］を押します。



付属のファンクションシールを使うと便利です。（Page...4参照）

□ *操作2*

鍵盤上の－（off）/＋（on）キーでオフ/オンを設定します。

電源を入れた時は、オンに設定されます。

設定完了後、FUNCTION用の2つのボタンから手をはなせば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

⑥ プログラム（音色）ナンバー送信

「5）プログラム（音色）ナンバー送信」で「オン」に設定しなくても、1～128の範囲でプログラムナンバーを送り、外部のMIDIで接続している音源の音色を変更することができます。

□ *操作1*

FUNCTION用の2つのボタンを押しながら、鍵盤C（ド）［ファンクションシールの「Trans prg」］を押します。

□ *操作2*

FUNCTION用の2つのボタンを押しながら、鍵盤上の10キーでプログラムナンバーを送信します。

001～128までの範囲で送信可能です。
プログラムナンバーの入力は、3桁で行います。
例えば、プログラムナンバー1を入力する場合は、「0」「0」「1」と入力します。
3桁目が入力されると同時に、プログラムナンバーが送信されます。

設定完了後、FUNCTION用の2つのボタンから手をはなせば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。

⑦ コンサートマジック演奏モード切り換え　モード1／モード2

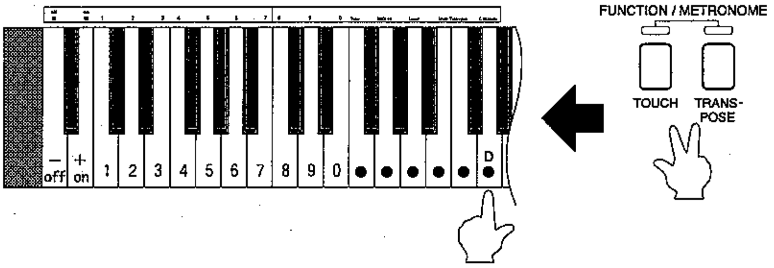
L2では、2通りの演奏方法でコンサートマジックを楽しむことができます。

モード1：指揮者のタクトのように、拍子にあわせて等間隔に鍵盤をたたいて曲を進めるモード。
テンポや、音の強弱は思いのままです。

モード2：曲に入っている音符のタイミングにあわせて、細かい音符が続くときは小きざみに、長い音符はゆっくりと鍵盤をたたいて曲を進めます。モード1より難易度は上がりますが、1音1音に強弱やタイミングの変化をつけることができます。

□ *操作1*

FUNCTION用の2つのボタンを押しながら、鍵盤D（レ）「ファンクションシールのC.M.Mode」を押します。



□ *操作2*

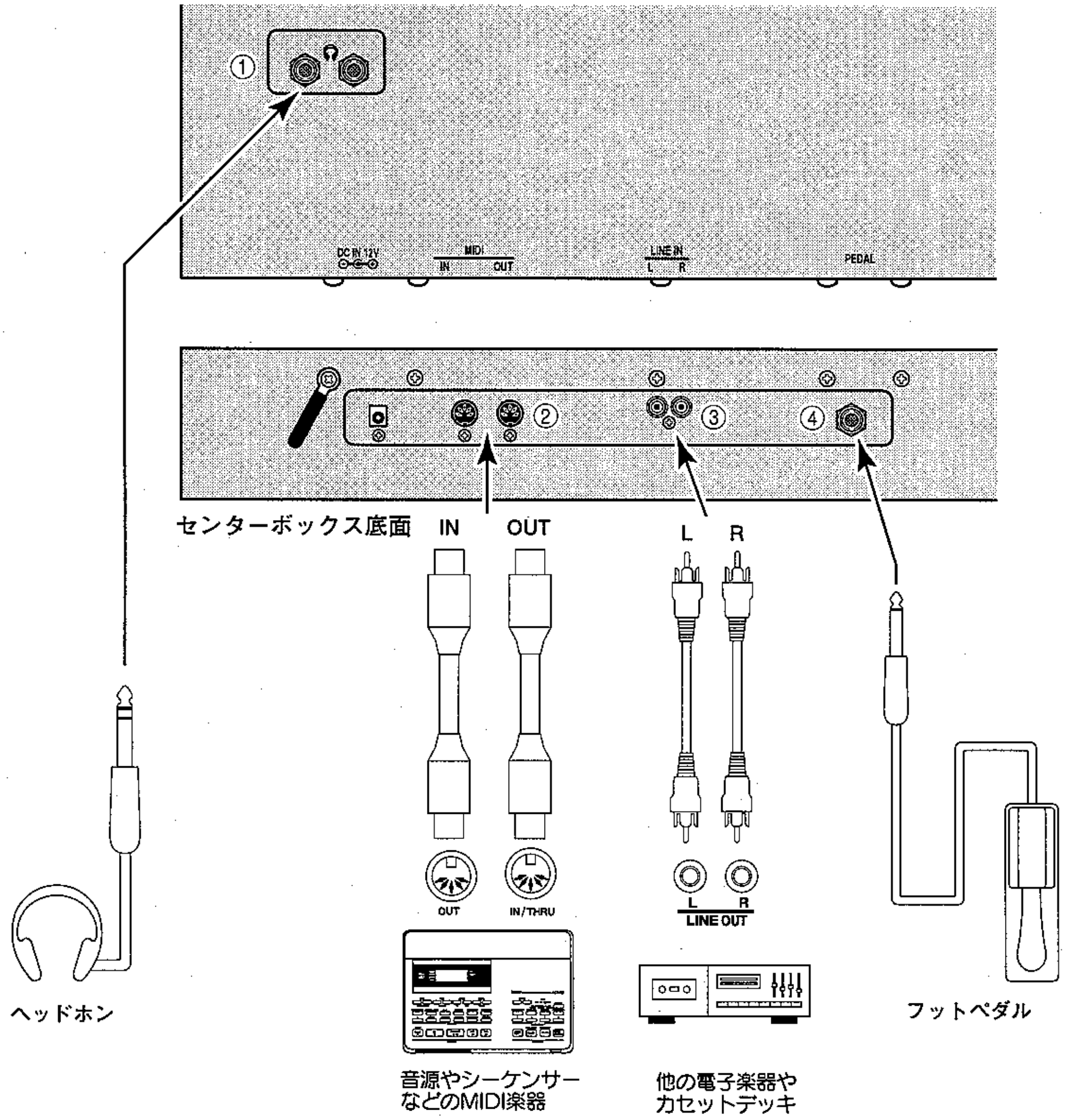
FUNCTION用の2つのボタンを押したまま、鍵盤上の －（off）/＋（on）で、モード1／モード2を切りかえます。電源を入れた時は、モード1に設定されます。

－（off）：モード1
＋（on）：モード2

設定完了後、FUNCTION用の2つのボタンから手をはなせば、設定モードから抜けます。
設定モードから抜けずに、つづけて他の設定項目を選択し設定することもできます。
電源を入れた時は、モード1に設定されます。

5.付　録

1）外部機器との接続



①PHONES（ヘッドホン端子）
ヘッドホンを接続する端子です。
2本まで接続できます。

②MIDI（ミディ）
MIDI規格に対応している楽器と接続する端子です。

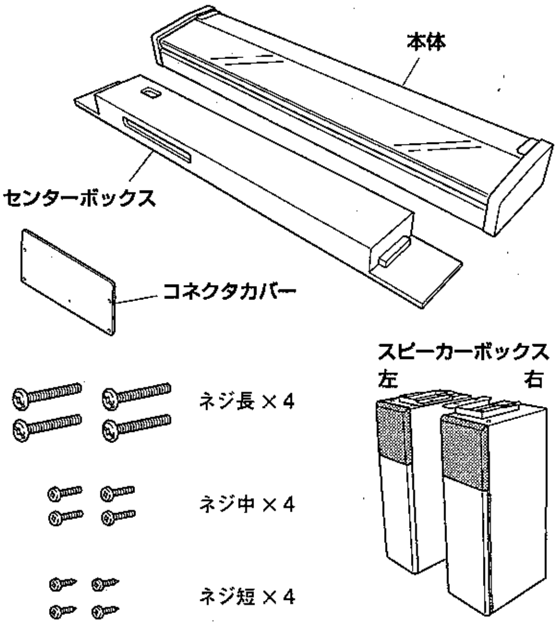
③LINE IN（ライン入力端子）<ピンジャック>
他の電子楽器やカセットデッキなどの出力端子とこの端子を接続すると、本機の内蔵スピーカーからそれぞれの機器の音を出力できます。この場合、本体のボリュームでは音量を調節できませんのでそれぞれの機器側で調節してください。R（アール）は右側、L（エル）は左側の入力を示しています。

④PEDAL（ペダル端子）
フットペダルを接続する端子です。オプションの F2-r（2本ペダル）も接続でき、ダンパーに加えてソフトペダルの演奏が可能となります。

2) 本体の組み立てかた

■部品の確認

組み立てる前に、部品がそろっていることを確認して下さい。
また、プラス・ドライバーをご用意ください。

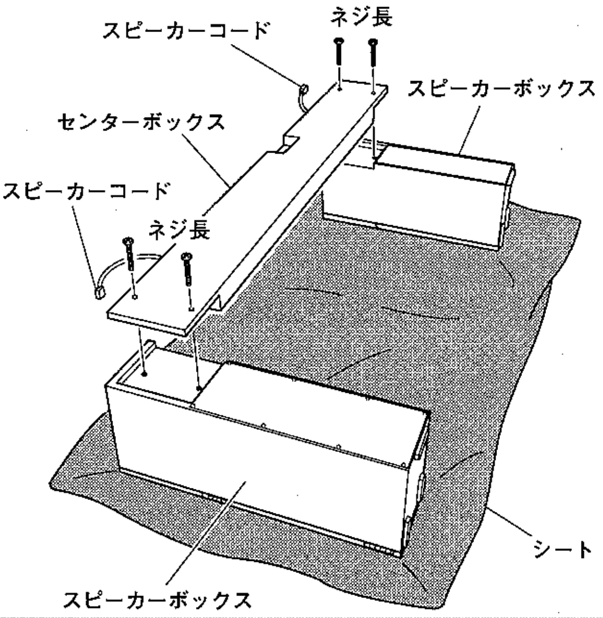


■組み立て手順

・1つのネジだけを完全に締めずに、周りのネジも同じくらいずつ締めるとうまく組み上げることができます。
・組み立てるとき、スピーカーボックスに傷がつかないよう、取り扱いにご注意ください。

1. スタンドの組立

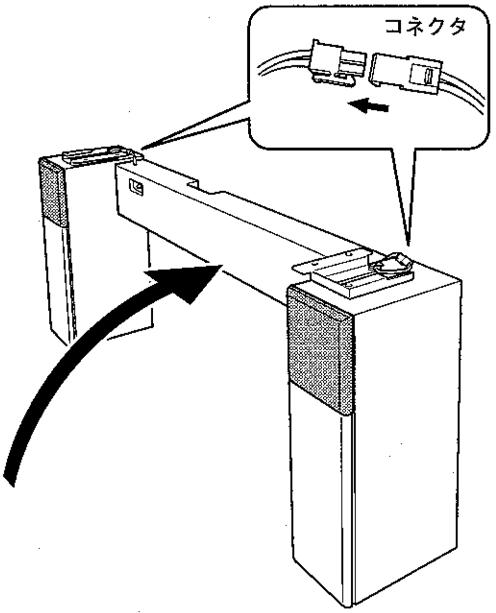
1-1 傷防止用シート等を敷き、スピーカーボックスを下図のように置く。
1-2 センターボックスを下図のように配置する。
1-3 ネジ長でスピーカーボックスとセンターボックスを固定する。(4カ所)　この際スピーカーコードをはさまないように注意してください。



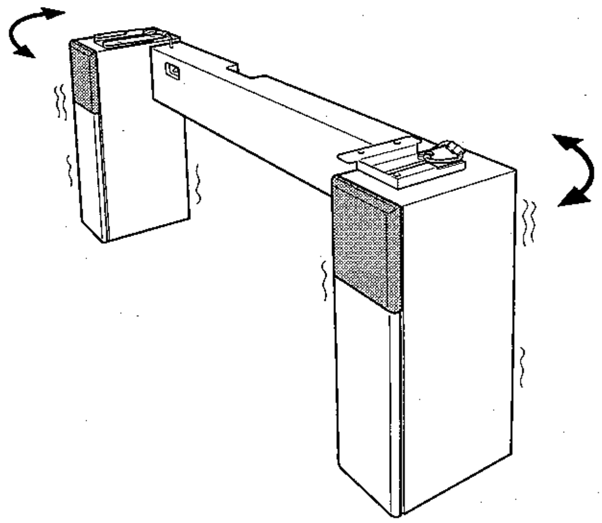
注意　組立作業は、必ず2人で行ってください。本機を移動するときは、水平に持ち上げるようにし、手を挟んだり、足の上に落とさないよう、十分に注意して下さい。

2. すべてのネジを固定したら、全体を起こしてください。
全体を起こすときは、センターボックスの中央付近を持って、静かに起こしてください。
この状態では後に転倒しやすいので注意して下さい。

3. 左右のスピーカーコードコネクターを接続する。
コネクターのフック（コネクタの突起部分）同士を合わせて接続します。ロックされるまで慎重に差し込んでください。

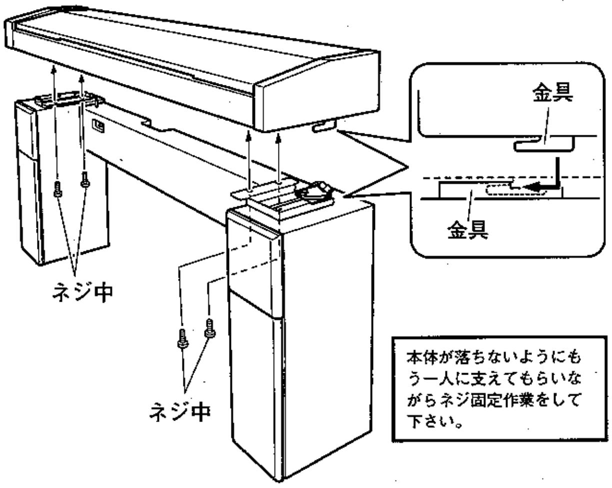


ガタツキがあるときは……
全体を起こしてガタツキがあるときは、もう一度ネジを締め直します。

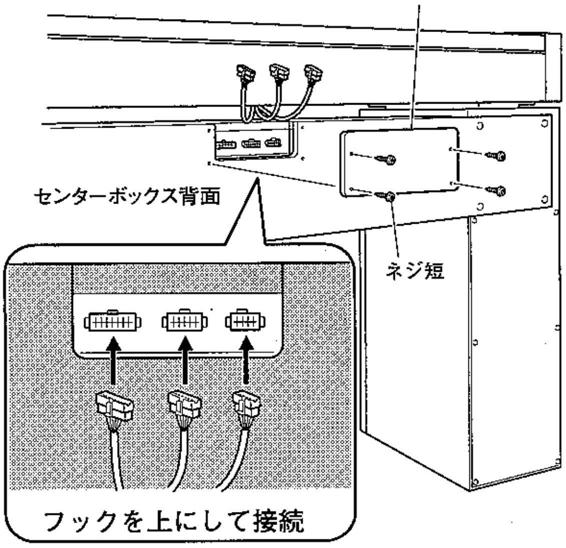


⑤ 付録

4. 本体をスタンドに載せます。
起こしたスタンドの上に本体をスタンドに静かに載せます。まず、正面から見て左右均等にし、やや後ろに本体を置きます。つぎに、前方へ止まるまでスライドさせます。本体とスタンドを4本（左右2本づつ）のネジで固定します。



5. ケーブルの接続
図のように、ケーブル3本をセンターボックスに接続します。3つのコネクタは形状が異なりますので合致するオス・メスどうしで接続してください。ケーブルは、カチッというまで差し込んでください。フック（コネクタの突起部分）を上向きに差し込んでください。
⚠ 注意：ケーブルの差し込みが悪いと、機器に電源を入れたとき、正常に動作しません。
⚠ 注意：それぞれのコネクタの形状を確認してください。
接続ができたらコネクタカバーを図のように取り付けます。



本機を移動する場合
電源コード、ケーブル類をL2からはずします。そして、水平に持ち上げ、手を挟んだり、足の上に落とさないように注意して運んでください。

分解する場合
組み立て手順1〜5の逆の順序で分解してください。

⚠ 注意

電源を入れ、ボリュームを上げても、鍵盤の音が出ない、鍵盤の音が正常でない、操作パネルのスイッチを押しても反応しない、その他の異常がありましたら、まず左記組み立て方“5. ケーブルの接続”の、3本のコネクタの接続を確認してください。3本とも、きちんとカチッというまで正しく差し込んでください。

3）主な仕様

■鍵　盤	88鍵/アドバンスト・ハンマー・アクションⅢ
■同時発音数	最大32音
■音　色	ピアノ1/2、エレクトリックピアノ、チャーチオルガン、ハープシコード、ビブラホン、ストリングス、クワイア
■その他の機能	ボリューム、トランスポーズ、チューニング、デュアル、デモ（14曲）、タッチカーブ選択（ライト、ノーマル、ヘビー、オフ）、リバーブ（ルーム, ステージ, ホール）、コンサートマジック（40曲）
■レコーダー	総記録容量　約1,800音
■メトロノーム	1/4、2/4、3/4、4/4、6/8拍子
■ペダル	ダンパー、ソフト（オプションの2本のペダル F-2r 接続時）
■外部端子	ヘッドホン（2）、ペダル、MIDI（IN、OUT）、LINE IN(L/R)
■出　力	7W×2
■スピーカー	12cm×2
■鍵盤蓋	譜面台兼用
■定格電圧	AC100V、50/60Hz
■消費電力	30W
■仕上げ	チェリー調
■寸　法	（W×D×H）136.0×27.0×77.0（cm）（鍵盤蓋閉時）
■重　量	36.0 Kg
■付属品	ACアダプター(PS-125D)/フットペダル(F-1r)/ヘッドホン(SH-2)/ファンクションシール/取扱説明書(本書)/保証書/本体の組み立てかた/ご愛用者カード/アフターサービスと音楽教室のご案内/「コンサートマジック曲集」のご案内/「コンサートマジック曲集」払込取扱票(全て各1部)

KAWAI [Model L2]

MIDI IMPLEMENTATION CHART

ファンクション		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1～16	1 1～16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *********	モード1 モード1,3 ×	* 電源ON時オムニ・オン。MIDIチャンネル設定操作によりオムニ・オフ
ノート ナンバー	音域	15 - 113 *********	0 - 127 15 - 113	
ベロシティ	ノート．オン ノート．オフ	○ 9nH v=1-127 × 8nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ．ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 67	× ○（右ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ ○	ボリューム ダンパーペダル ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	（プログラムチェンジ対応表参照）
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○*** ○*** ×	*** マルチティンバーモードONの時
備考				

モード1：オムニオン、ポリ　モード2：オムニオン、モノ　○：有り
モード3：オムニオフ、ポリ　モード4：オムニオフ、モノ　×：無し

付録⑤

KAWAI [Model L2]

MIDI IMPLEMENTATION CHART

ファンクション		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 1 ~ 16	1 1 ~ 16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	モード3 × *********	モード1 モード1,3 ×	* 電源ON時オムニ・オン。MIDIチャンネル設定操作によりオムニ・オフ
ノート ナンバー	音域	15 - 113 *********	0 - 127 15 - 113	
ベロシティ	ノート、オン ノート、オフ	○ 9nH v=1-127 × 8nH v=0	○ ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ、ベンド		×	×	
コントロール チェンジ	7 64 67	× ○（右ペダル） ○（左ペダル）	○ ○ ○	ボリューム ダンパーペダル ソフトペダル
プログラムチェンジ 設定可能範囲		○	○	（プログラムチェンジ対応表参照）
エクスクルーシブ		○	○	
コモン	ソングポジション ソングセレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他	ローカルON／OFF オールノートオフ アクティブセンシング リセット	× × ○ ×	○ ○*** ○*** ×	*** マルチティンバーモードONの時
備 考				

モード1：オムニオン、ポリ　モード2：オムニオン、モノ　○：有り
モード3：オムニオフ、ポリ　モード4：オムニオフ、モノ　×：無し

付録⑤

KAWAI

株式会社河合楽器製作所
電子楽器事業本部
〒430-8665　浜松市寺島町200番地
TEL.<053>457-1277 / FAX.<053>457-1279
http://www.kawai.co.jp

KPSZ-0050
0308S - Printed in Japan